

第18期(2023年3月期)第2四半期決算説明会

2022年11月29日



アジアパイルホールディングス株式会社

目次

I 決算のポイント、主なトピックス	1
II マーケットの動向	8
III 決算概要(連結)	14
IV 経営概況	21

I 決算のポイント、主なトピックス

I-1 決算のポイント

➤ 2023年3月期 第2四半期連結業績の概況

(%表示は対前年同期増減率)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
541億円 (+18.2%)	36.2億円 (+84.1%)	35.3億円 (+76.2%)	25.2億円 (+79.1%)

➤ 2023年3月期 連結業績予想及び進捗状況

(%表示は対前期増減率)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
1,050億円 (+12.7%)	45億円 (+106.0%)	40億円 (+84.4%)	25億円 (+67.3%)
進捗率51.5%	進捗率80.6%	進捗率88.3%	進捗率101.0%

I-2 決算のポイント

➤国内、海外の状況

(連結調整前、%表示は対前年同期増減率)

	売上高	セグメント利益
国内	456億円 (+19.2%)	32.0億円 (+104.7%)
海外	85億円 (+14.3%)	5.2億円 (+22.9%)

新工法の優位性を核に積極営業展開
大型工事集中・新工法の施工効率改善

原材料価格上昇・採算重視の受注活動

➤国内部門別売上高

(%表示は対前年同期増減率)

コンクリートパイル	場所打ち	鋼管	その他(継手金具等)
367億円 (+29.4%)	46億円 (△33.5%)	27億円 (+68.3%)	14億円 (+14.7%)

I-3 主なトピックス

国内展開

新工法を中心に大型工事の受注増加傾向が続く

大径・高強度杭需要拡大から生産体制強化中

全社ベースでの施工体制整備

海外展開

ベトナム
PV社

原材料高騰続く中、採算重視の受注活動

ミャンマー
VJP社

事業活動停滞中

I-4 主なトピックス

国内展開

新工法を中心に大型工事の受注増加傾向が続く

➤ 受注高堅調に推移中

2022/9末受注残:約375億円(前年同期末比+3割増) ※完エベース

大径・高強度杭需要拡大から生産体制強化中

➤ 大径・高強度杭の生産能力増強投資

茨城工場設備投資(投資予定額26億円) 来夏完成予定

全社ベースでの施工体制整備

➤ 大型工事受注増への対応

施工稼働力・杭生産能力を最大限に生かす

I-5 主なトピックス

海外展開

ベトナム
PV社

原材料高騰続く中、採算重視の受注活動

- 都市計画による大規模社会住宅受注に注力
- 原材料価格高騰は続いており、採算重視の受注活動に注力中
- 渡航制限緩和、国内事業との連携強化・施工技術向上取組中

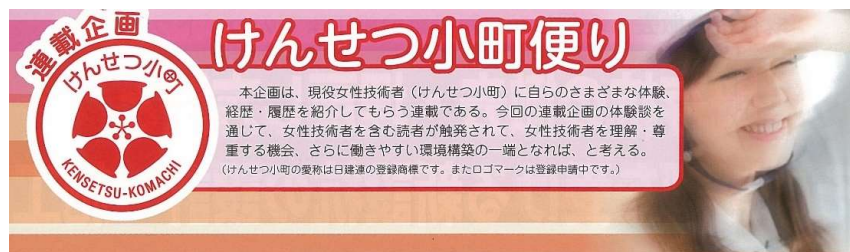
ミャンマー
VJP社

事業活動停滞中

- 経済活動停滞
 - ✓ 事態推移注視の上、適切に対応の方針

ジャパンパイルの取組

業界誌・月刊「基礎工」2022年7月号の連載企画「けんせつ小町便り」で弊社グループの現役女性技術者が紹介されました。



第79回 ジャパンパイル(株) 大前 綾菜*



写真-1 杭工事の様態状況の全景

4. 女性だからこそできること

2014年に国土交通省と建設5団体から「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」が発表され、女性が現場で働きやすいよう、女子専用トイレや更衣室が設けられるなど現場環境の改善や見直しが進み、建設現場でも女性の監督さんが増えているなど仕事を通して実感しています。しかし、私が現場代理人として現場に着任すると「女性なのに出来るのか、本当に大丈夫なのか」と直接言われ、とても悔しく寂しい気持ちになったことがあります。確かにまだまだ現場で働く女性が少ないのが現状で、不慣れを抱く方がいるのは当たり前だと思います。建設現場



写真-2 既製コンクリート杭の施工業務の状況

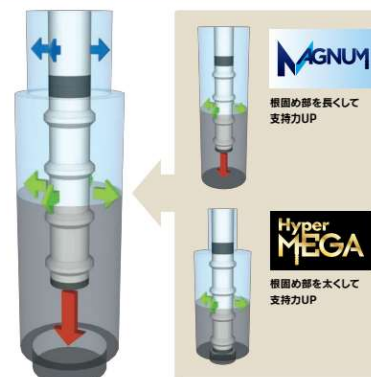
5. 今後の目標

今後の目標は、建設関係の様々な資格を取りたいと考えています。私の最終学歴が高卒であることもあり、資格を取りたくても受験条件の一つである実務経験が足りず、今まで資格をとることが出来なかったのですが、現場経験が増えここクリアできるようになった今、受験が可能となった資格から挑戦していきたいと考えています。社会人になってから机に向かって勉強する機会が少なくなり、仕事と試験勉強の両立ができるのか不安な部分ではありますが、資格を取る過程で様々な知識を身に付けることも、これからの業務に繋げることができるため、自分自身の成長も楽しみです。

Smart-MAGNUM工法

Smart-1 最新の技術で「Smart」高支持力

- 国内最大級の支持力
- 当社保有工法のさまざまな特長を集約した万能型工法



Smart-2 ICTで「Smart」品質管理

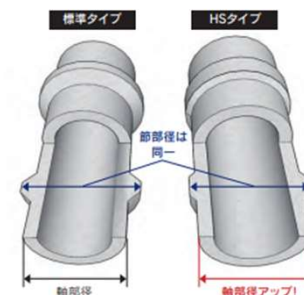
Smart-3 多彩な杭組み合わせで「Smart」デザイン

高強度杭

杭材の追加

新たに高支持力対応節杭を用いることで、地盤から決まる支持力を効果的に採用できます。

高支持力対応節杭(HSタイプ)とは、標準タイプと同じ節節径でありながら、軸節径を大きくした杭です。軸節面積が増え、大きな軸力にも対応できます。

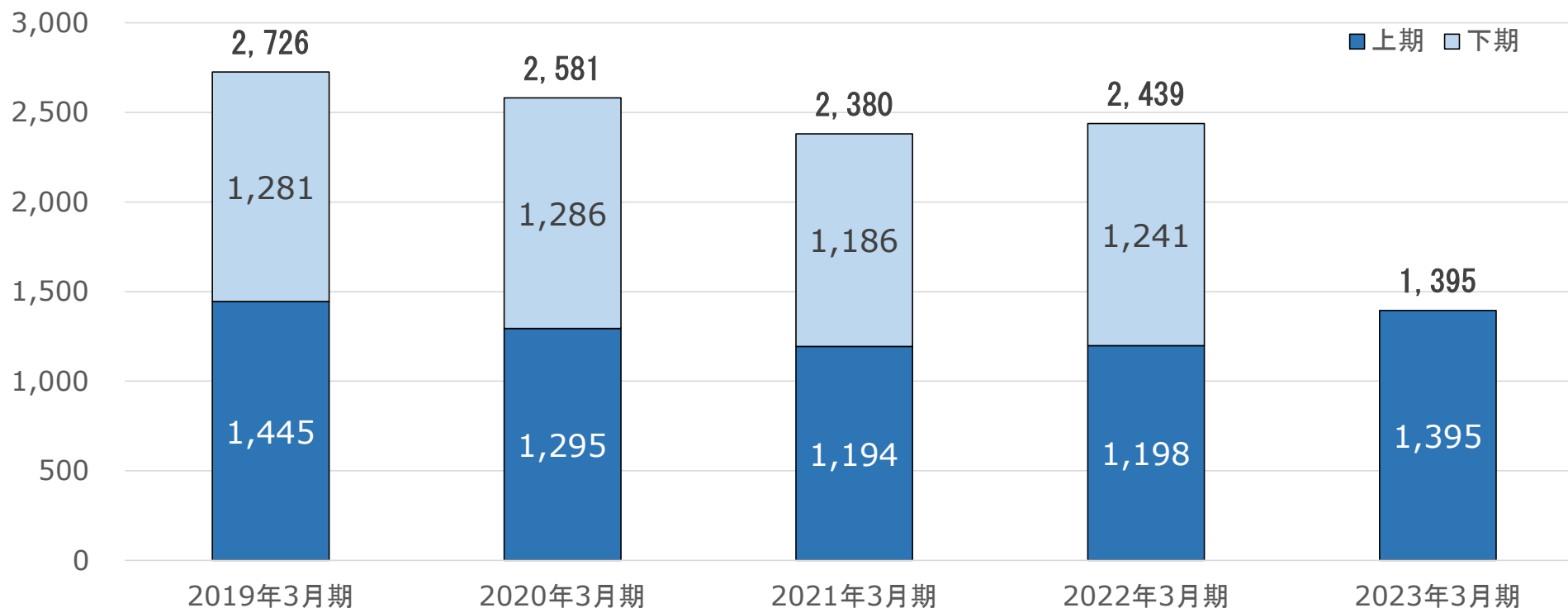


Ⅱ マーケットの動向

Ⅱ-1 全国コンクリートパイロ出荷量

(単位：千トン)

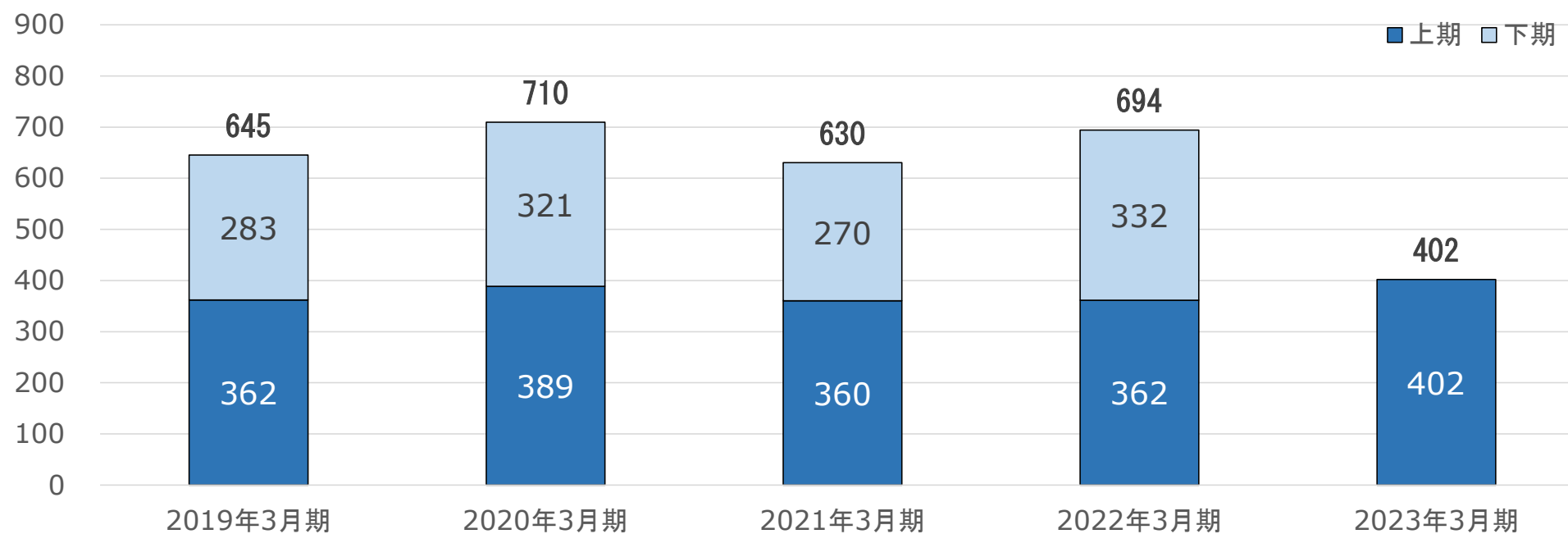
(出典)一般社団法人 コンクリートパイロ・ポール協会資料



➤2022年度上期は、前年同期比16.5%の増加

Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイプ完成量(国内)

(単位：千トン)



➤ 2022年度上期は、前年同期比11.2%の増加(出荷量は同17.1%の増加)

Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料

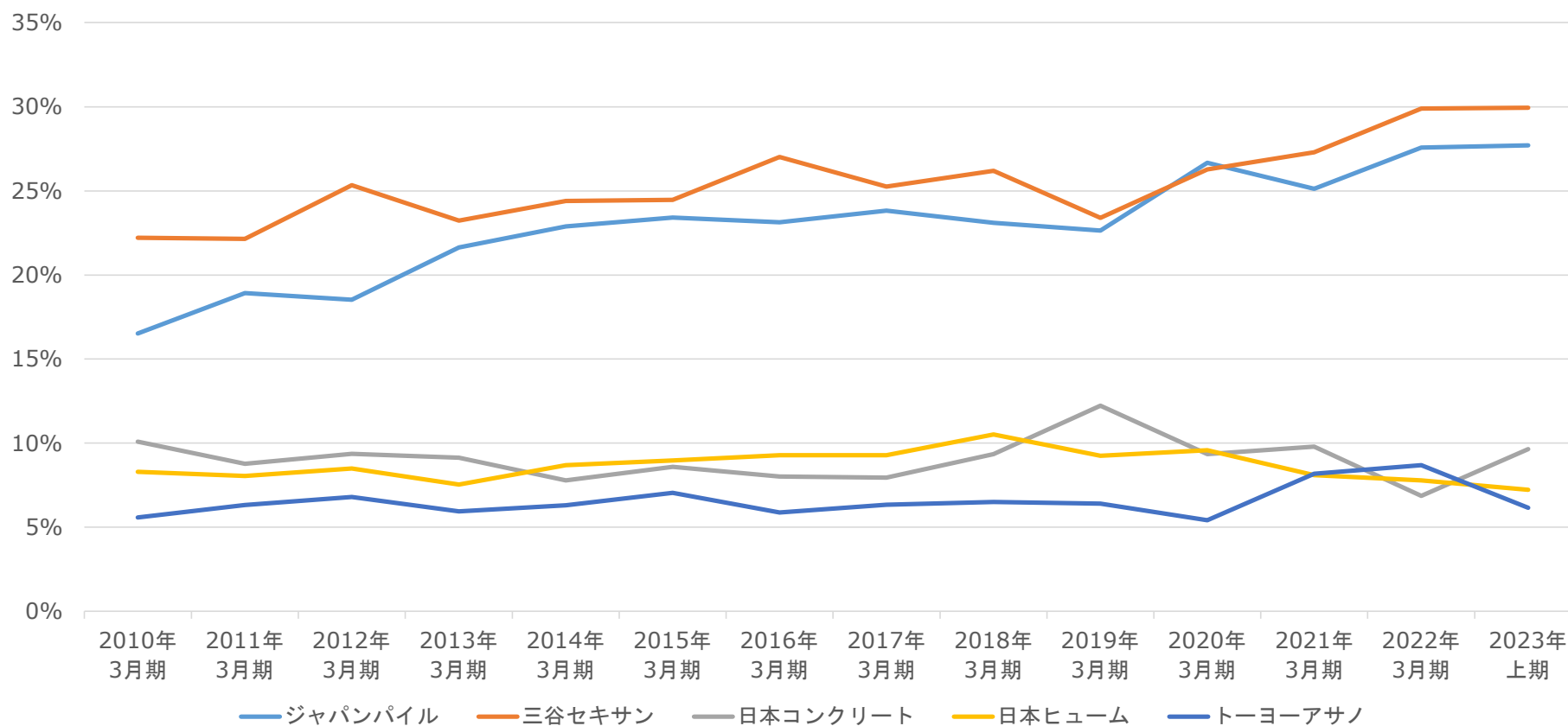
		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (上期)
当社グループ	完工量(千t)	645	710	630	694	402
	シェア	23.7%	27.5%	26.5%	28.5%	28.8%
	出荷量(千t)	617	688	598	672	386
	シェア	22.6%	26.7%	25.1%	27.6%	27.7%
三谷セキサン	出荷量(千t)	638	678	650	729	418
	シェア	23.4%	26.3%	27.3%	29.9%	29.9%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	333	241	233	167	135
	シェア	12.2%	9.3%	9.8%	6.9%	9.6%
日本ヒューム	出荷量(千t)	252	247	193	190	101
	シェア	9.3%	9.6%	8.1%	7.8%	7.2%
トーヨーアサノ	出荷量(千t)	175	140	195	212	86
	シェア	6.4%	5.4%	8.2%	8.7%	6.2%
その他	出荷量(千t)	711	586	512	468	270
	シェア	26.1%	22.7%	21.5%	19.2%	19.3%
業界全体	出荷量(千t)	2,725	2,581	2,380	2,439	1,395
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ-4 コンクリートパイルの出荷シェア推移(国内)



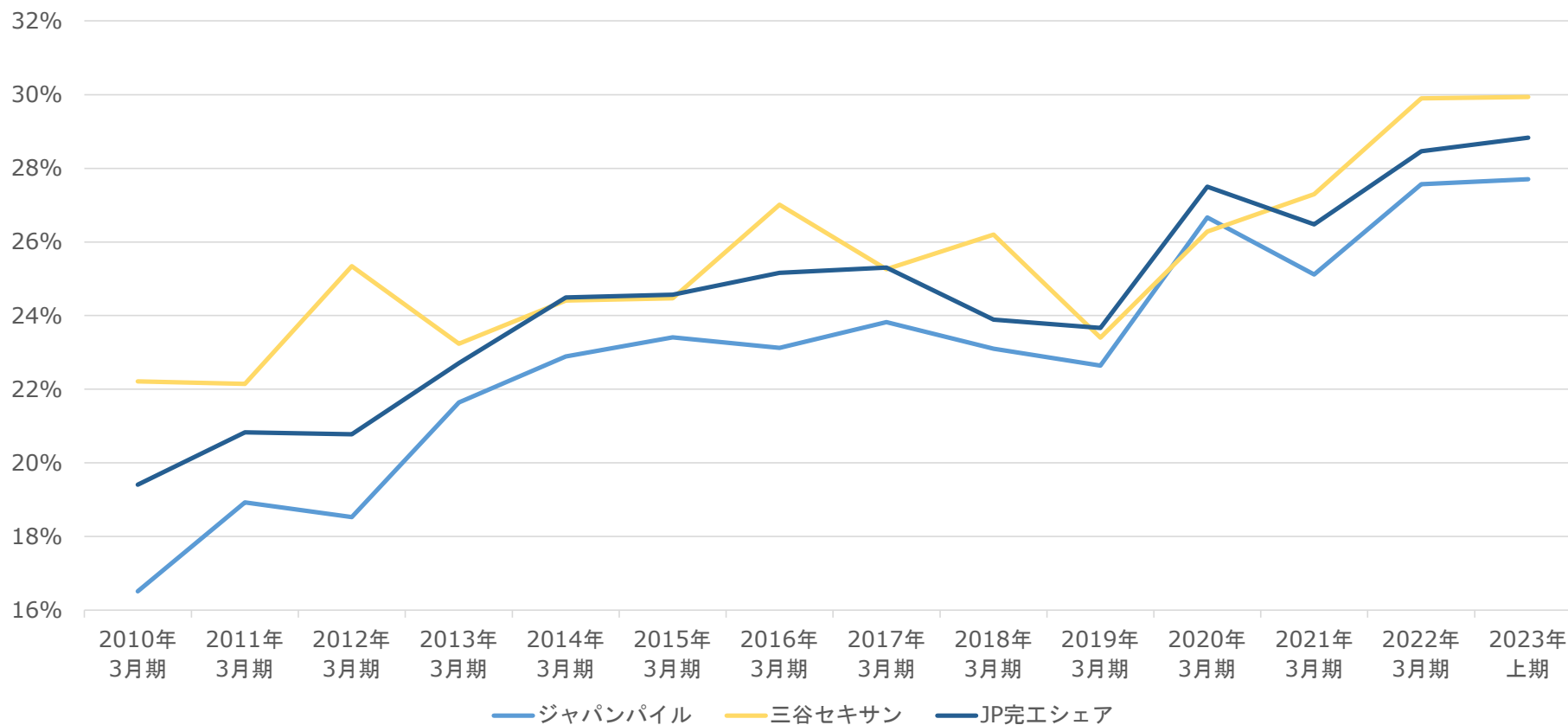
アジアパイルホールディングス株式会社

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料



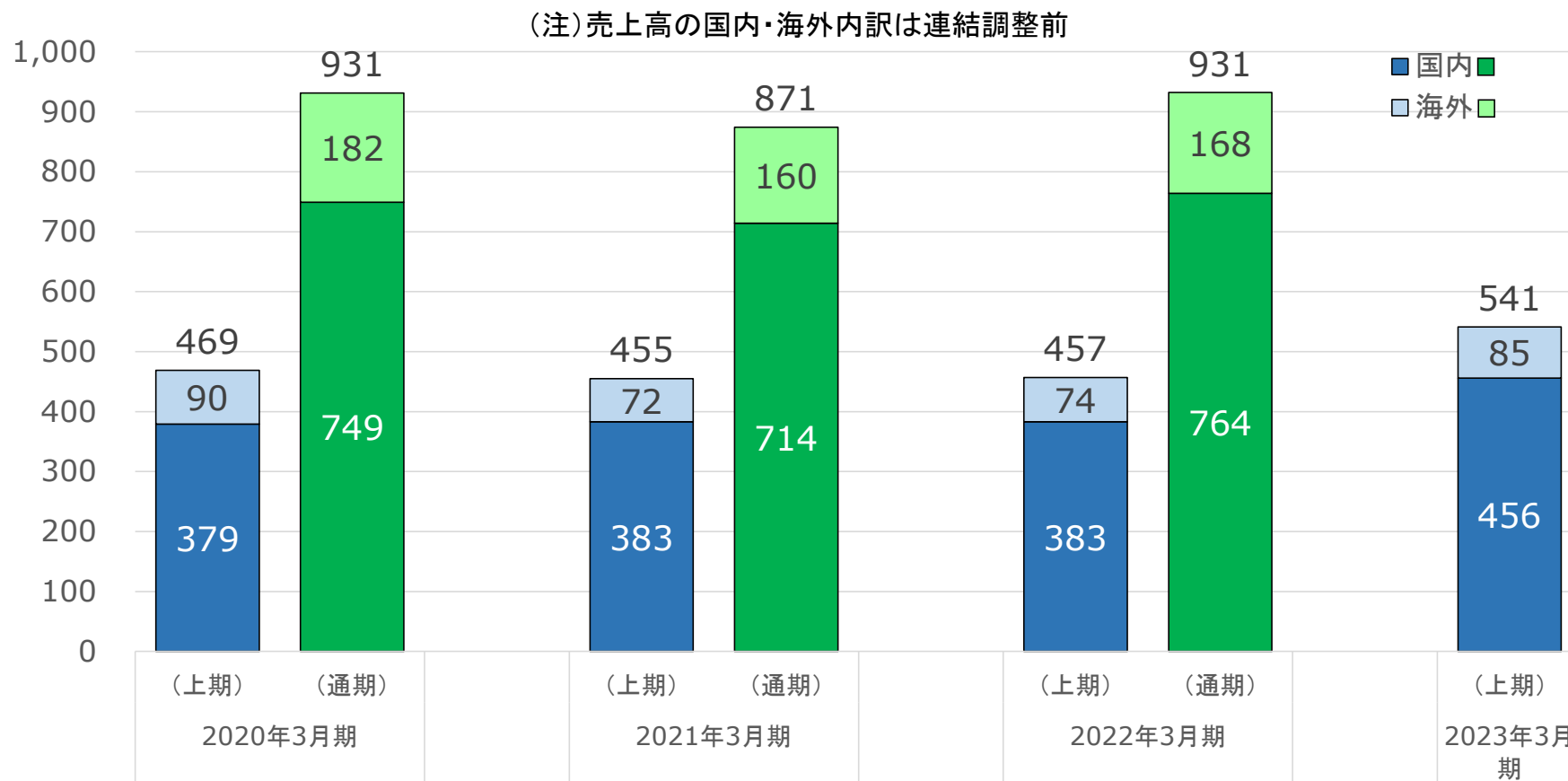
Ⅱ-5 コンクリートパイルのシェア推移(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料



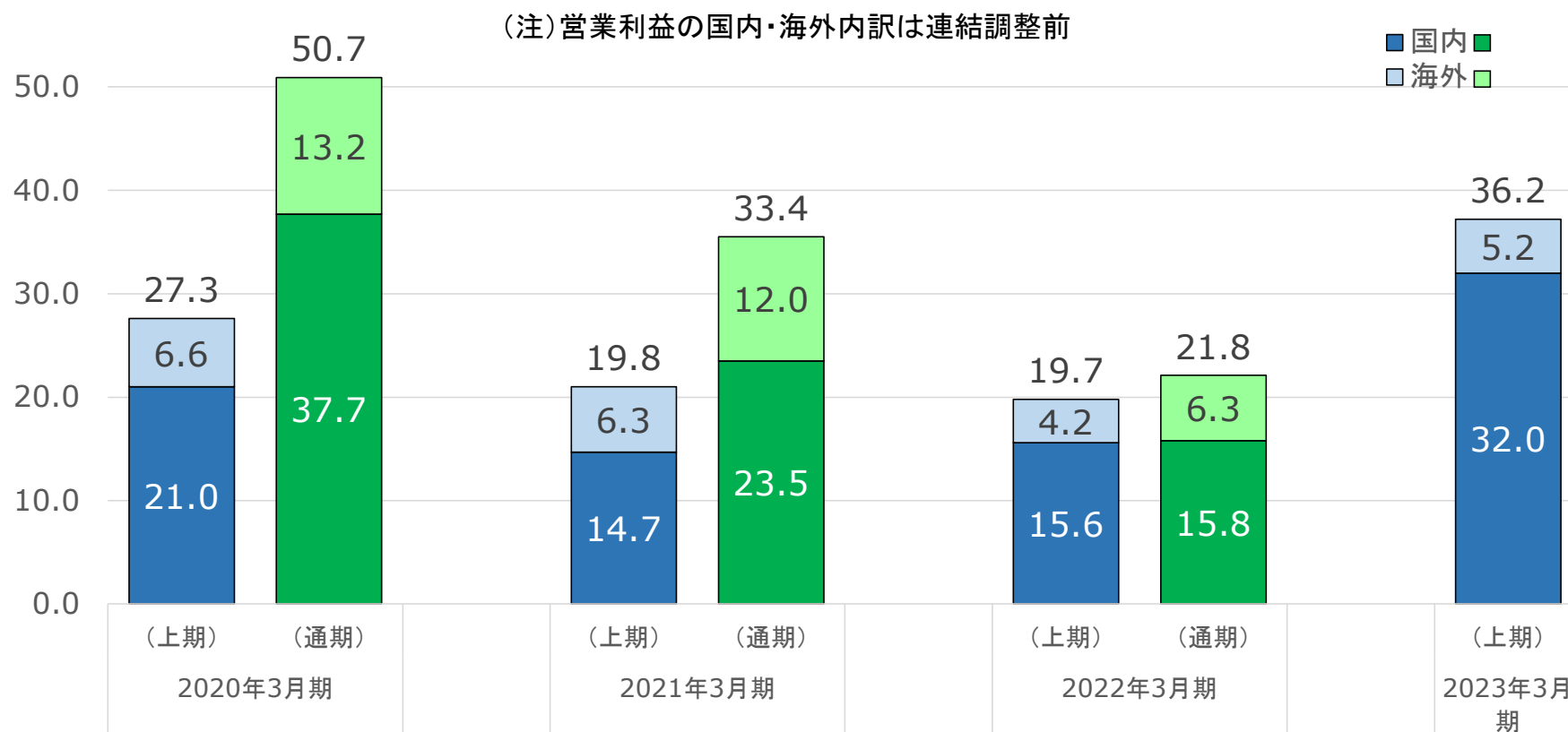
Ⅲ 決算概要(連結)

Ⅲ-1 売上高の推移



➤国内・海外共に行動制限の緩和に伴い、前年同期比、改善

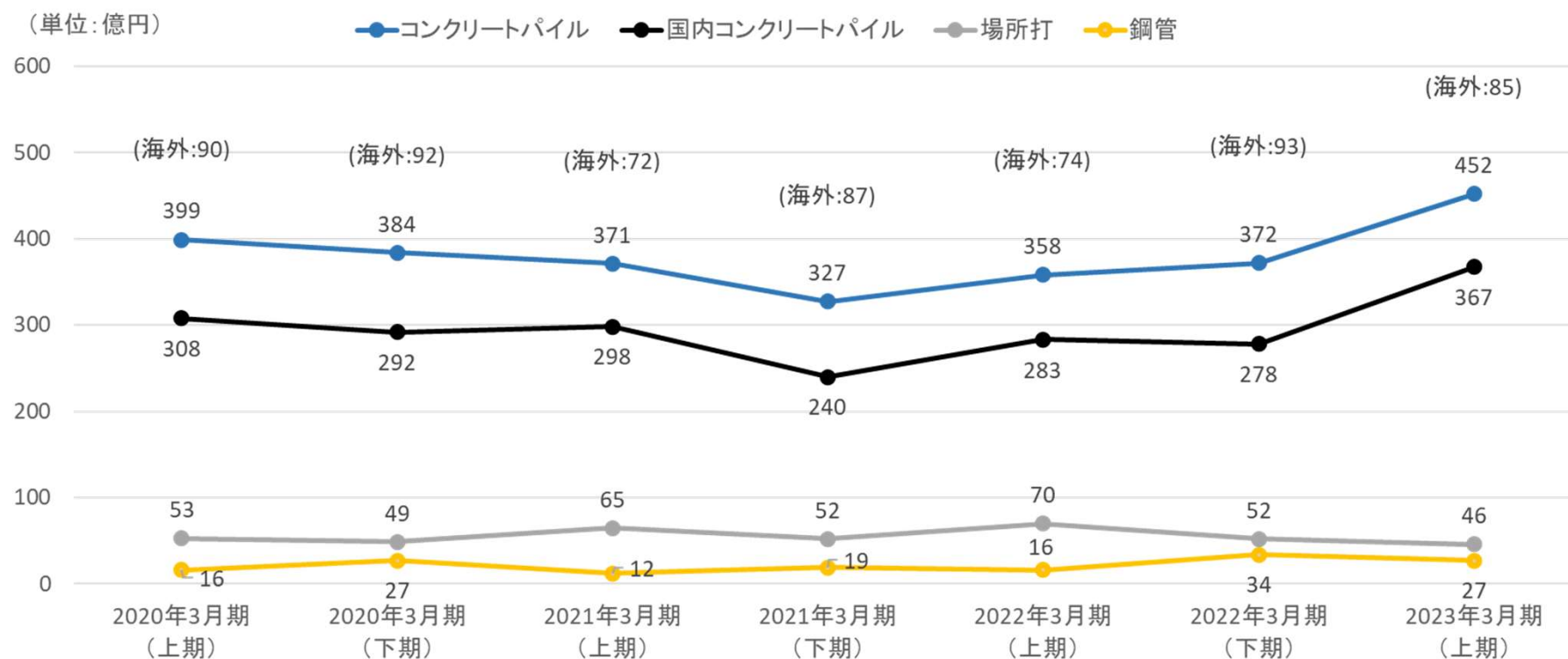
Ⅲ-2 営業利益の推移



➤ 国内: 大型案件が寄与し、収益改善

➤ 海外: コロナ禍(ロックダウン)等が落ち着き、改善傾向

Ⅲ-3 部門別売上高の推移



Ⅲ-4 損益計算書

(単位:百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期
売上高	43,491	85,566	46,962	93,175	45,528	87,192	45,786	93,176	54,125	105,000
売上総利益	7,089	13,593	7,209	13,860	6,421	12,328	6,422	11,394	8,681	-
営業利益	2,937	5,212	2,731	5,076	1,984	3,340	1,970	2,184	3,627	4,500
経常利益	2,794	4,847	2,427	4,596	1,797	3,081	2,005	2,169	3,533	4,000
親会社株主に帰属する当期純利益	1,986	3,164	1,522	2,712	1,899	2,437	1,409	1,494	2,525	2,500
売上高総利益率	16.3%	15.9%	15.4%	14.9%	14.1%	14.1%	14.0%	12.2%	16.0%	-
自己資本当期純利益率	-	10.5%	-	8.1%	-	6.9%	-	4.1%	-	-

通期業績予想については、国内の原材料価格高騰やベトナムの不動産業界動向・為替動向等を見極めた上で、改めて見直す予定

Ⅲ-5 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2019年3月期		2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期
	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)	通期	(上期)
I. 営業活動によるキャッシュフロー	△ 211	3,195	3,652	6,891	3,773	7,304	△ 410	3,628	1,457
II. 投資活動によるキャッシュフロー	△ 1,769	△ 3,164	△ 1,267	△ 2,549	△ 2,531	△ 4,549	△ 1,085	△ 2,660	△ 2,596
III. 財務活動によるキャッシュフロー	77	1,937	△ 2,074	△ 3,636	1,709	△ 155	△ 1,075	△ 1,131	△ 556
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	7,478	11,330	11,629	11,957	14,902	14,344	11,858	14,225	12,445

(ご参考)新5か年計画 進捗状況

(単位: 億円)	新5か年計画 2023年度	(1年目) 2019年度 実績	進捗率	(2年目) 2020年度 実績	進捗率	(3年目) 2021年度 実績	進捗率	(4年目) 2022年度 上期実績	進捗率	(4年目) 2022年度 計画値	進捗率
売上高	1,100	931	85%	871	79%	931	85%	541	49%	1,050	95%
<国内>	800	749	94%	714	89%	764	96%	456	57%	850	106%
<海外>	300	182	61%	160	53%	168	56%	85	28%	200	67%
営業利益	65	50	77%	33	51%	21	32%	36	55%	45	69%

(注)売上高の国内・海外内訳実績は連結調整前

IV 経営概況

IV-1 経営概況

1. コンクリートパイル市場の動向について

- (1) 高支持力工法が主流
- (2) 高支持力工法がもたらした市場の変遷
- (3) 新工法Smart-MAGNUM工法の開発と普及戦略
- (4) 今年度上期の状況

IV-2 経営概況

2. 上期決算のポイント

- (1) 大型工事の受注増加傾向が続く
- (2) 大径高強度杭はフル生産
- (3) 前年度受注の低収益物件の影響
- (4) 場所打ち杭は伸び悩み、鋼管杭は順調
- (5) 全社ベースでの施工体制が機能

IV-3 経営概況

3. 下期の業務環境

- (1) 一般情勢
- (2) 業界の動向

4. 当社の下期方針

- (1) 大型工事の受注強化と体制整備
- (2) 原材料価格上昇への対応

IV-4 経営概況

5. 海外業務の現状

(1) ベトナムファンブー社の現況

(2) ミャンマーVJP社の現況

6. 創業100周年を目指して



アジアパイルホールディングス株式会社

Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。